

**第5回 松山市中心市賑わい再生社会実験専門部会
議事要旨**

- 日 時：2015年11月13日（火） 10:00～11:30
- 場 所：松山アーバンデザインセンター1階
- 出席者：別紙出席者名簿参照

次第

1. 開会
2. 挨拶
3. 委員紹介

【事務局】

（開催挨拶、配布資料の確認、代理出席等委員紹介）

4. 議事

【委員 A】

本日は議事5で、社会実験を始めて1年間が経過し、これまでの運営の課題と今後の対策についてとりまとめているため、重点的に議論していただきたい。

（1）前回意見の概要

【事務局】

（資料説明 P.1-1）

【委員 B】

質問があれば伺いたい。

（一同、質問無し）

【委員 C】

続けて、議事（2）について事務局から説明いただきたい。

（2）ひろば・多目的スペースの利用状況

【事務局】

（資料説明 P.2-1～2-5）

【委員D】

約1年が経過し、ひろば・多目的スペースは、安定的に毎月利用されている。一方で、多目的スペースは女子高生の休憩・雑談の割合が多いという状況もある。

【委員E】

環境の変化は実感する。具体的には、小さい子供が増えた、賑やかになったという印象である。

【委員F】

ひろばに関して、当初は犯罪などの懸念があったが、1年が経過し、問題もなく順調に運営されており、子どもが遊びに来ているなどというように感じている。

【委員G】

スタッフの学生たちが注意して見守っていることもあって、大きなトラブルはないのではないかと。通常の公園であれば常時見守ってくれる人はいないが、このひろばにはそれがある。

【委員H】

心配されていたのは夜の利用についてである。過去に近隣で人目があっても大きな事件が発生したにも関わらず、ここでは、見事に無いというのは驚きだということである。

【委員I】

過去に駐車場等で犯罪的な行為があったが、そのような懸念事案もこのひろばでは全然なかった。

【委員J】

施設がきれいだというのが一番ではないか。例えば、きれいな椅子は、汚そうとしない。汚くなってくると、汚そうとする。

【委員K】

逆に、普段から目を配っておかないといけない。汚くなると犯罪が起こる可能性もある。

【委員L】

お城下松山では、落書き消しを定期的にやっている。この場所にも落書きがでてくると、悪い事は起こると思う。

【委員M】

そのあたりの課題については後ほど改めて伺いたいと思う。

(3) ひろば・多目的スペースに対するニーズ把握

【事務局】

(資料説明 P.3-1～3-8)

【委員N】

今の説明について、意見や質問を伺いたい。常駐の立場として、この結果をどう思うか。

【委員O】

批判的な意見を見ていると、施設の趣旨がうまく伝わっていないということがこの1年間の課題である。具体的な意見としても出ているので、時期を見て周辺に説明して回る必要もあるように思う。

【委員P】

ご近所紹介マップを作った結果、北通りの商店の方に関してはこの半年間で意見がポジティブに変わったので、一緒に物事に取り組んだり、コミュニケーションを図ったりすることで、活動について理解いただけると思う。今のところ、商店街との連携は少ないように思う。

【委員Q】

こちらが商店街の店舗について、どういう方がいるのかを分かっていないのと同様に、商店街の方も我々を知らないため、その点については反省している。

【委員R】

地元としては、ひろばは子どもが遊ぶ場所として知られているという印象がどうしても強い。

【委員S】

ひろばが子どもの遊び場として理解してもらっているのは良い事ではある。

【委員T】

地元からすると、「誰が何のためにつくり」、「何をやってるか」がポイントで最初の時点ですれがあったように思う。ひろばはわかりやすく、いい空間ができた。一方で、「何で」というところになると、例えば、私も説明できない。一般の人でもアーバンデザインセンターの認識は低い。密着するためには、コミュニケーションが大事である。

【委員U】

具体的な今後の方向性については、議事(5)で議論いただきたい。

【委員V】

もう1つ、観光の拠点という視点も必要だと思う。観光拠点としても活用できるということを1つのアイデアとして取り組んでいかなければ、「何のためにあるの」「おしゃれなものがあっ

たり、きれいなものがある、立派でいいよね」ということだけになる。

【委員W】

満足度、継続意向が向上している結果について、事務局はどう受けとめているのか伺いたい。

【事務局】

みんなのひろば・アーバンデザインセンターの取り組みは、全国的にも稀なケースであり、1年前にチャレンジする際には、若干不安もあったが、一定の効果はあったと捉えている。

継続意向が多いことを受けとめてはいるが、当然、地権者の方々、地元の方々もいらっしゃいますし、L字の再開発の動きもある。

一方で、コミュニティが希薄になってきている現状もあり、そういったことも踏まえて、いろいろと試していかないといけないところがある。

ただし、予算化に向けては、本市の財政事情もあり、議会の承認が必要となるため、地権者の了解、その地域の方々の了解も得ながら、前向きに、今後検討を進めていきたい。

【委員X】

それでは、次の議事（4）について事務局より説明いただきたい。

（4）社会実験の効果検証（中間報告）

【事務局】

（資料説明 P.4-1～4-5）

【委員Y】

今の説明について、意見や質問があれば伺いたい。また、効果検証の方法等についても提案等があれば伺いたい。

【委員Z】

体感的にも認知度が上がっている。自分の身の回りも含めて、20代、30代、ファミリー世代も利用している。ただ、「ひろば」の名前は聞くが、「UDCM」という名前を日常会話の中で余り聞かない。先ほどの話も出ていたように、ここの意味とか意義とかをどう伝えていくのが重要である。

【委員AA】

UDCMは専門家の常駐がポイントであるが、それについては、認知度が相当少ない。

【委員AB】

例えば、観光の窓口があり、「まちの情報を教えてくれる人がいる」とか、ひろばは子どもが遊べるなど、はっきりとわかりやすいコンセプト・キーワードが必要かと思う。

学生が参加し、交流しているのは、目で見ても分かり易く、若い世代の人がたくさんいるとまちの雰囲気は、若くなったようなイメージがあって良い印象。こうしたこれからの世代を担う人たちが参加できる仕組みは大切。

【委員AC】

学生がいることは、イメージとしても良いかと思う。

【委員AD】

観光との関連は、非常に魅力的である。ひろばが子どもの集まる場所として、子どもをターゲットにするのは良いと思う。一方で、観光との関連で、施設に来る目的を作るのが手っ取り早い。例えば、「砥部焼の絵付けができる」とか「南予の真珠のアクセサリを手作りでできる」というような目的の場所にしてしまうというのはいいと思う。

【委員AE】

「学生がいる景色はいい」というのは、「誰に対して、何に対していいのか」というところが重要である。その効果・目的についての説明が必要である。

【委員AF】

学生が地元の人と親しみを高めてもらうという意味では、学生の教育という面もあり、地元とのつながりとしても、緩衝材にもなるというのはいいと思う。

一方で、情報発信、まちづくりを市民と一緒に取り組む拠点という目的がある。多目的なので、一つに絞るわけではないが、観光についても色々な可能性は整理して進めるべきかと思う。

【委員AG】

地元としては、直感的に学生がいた方がいいと思う。

社会実験であるため、試行錯誤しながらやっている。観光などもアドバイスの的には良いが、個人的には観光は一切、除外した施設の方がいいと思っている。

【委員AH】

目的の明確化について観光も一つの論点であるため、今後の議論の中で入れていければと思う。

【事務局】

市として色々な意見をいただくのは非常にありがたく感じている。ただ、アーバンデザインセンターは、良好な都市空間を形成するのが目的である。

そのために、色々な切り口があり、住民や商売をしている方など色々な方がおられるが、「まちづくり」と言っても、あまり関係はなく、一生懸命やってくれる人は数少ない。無関心な人をどうやって引っ張り込むかという観点からは、イベントなど興味がある部分から集まって、最終的には“お祭り”、“まちづくり”というふうの一つは持っていきたいというのが一つの切り口でもある。

もう一つは、都市計画とか景観の先生が常駐し、再開発の相談や家を建てる際の意匠の相談にも活用してほしいという考えがある。更に、行政と民間で行ってきたまちづくりに中立の立場として専門家の先生に入らせていただくことで、松山にとって最適なものになるように、専門家の知識で初動期から常に関わっていただいて、行政、地元と共にやっていくというのが、最終形、理想の形である。

こういうプラットフォームがあるから皆さん寄っていただくこともできるし、学生も来ていただけるといふ部分があるので、こういうプラットフォームはやはり必要ではないかというのが、考え方である。

【委員A I】

「まちづくり」という言葉自体、範囲がかなり広い。データを基に弱点分析し、次に進むという話で、観光というのは単なる一つのキーワードなだけでまちづくりの中の一つの視点。

【委員A J】

確かに、観光客の方が無料で休憩できて情報収集する場所というのはまちなかに無い。Free wi-fi の整備を進めているが、無料で休憩できて、トイレがある、そこで情報収集ができるという場所はすごく大事だと思っている。

まちなかの賑わい再生を含めて、都市空間というような社会実験の中でのことなので、私はこれで十分事足りていると思っている。ただ、このままで市の予算を投入していくのは非常にもったいないとも思う。

データとしても市内の利用者、市外・県外の利用者に対しての結果を見れば違うのではないか。

観光の立場から見ると、まちなかを案内した際に、休憩・集合場所、簡単な軽食を食べることができたりという部分があれば、案内もしやすいと思う。そういう意味で、実験を踏まえた形で、ちゃんとしたものを作っていただきたいという気がする。

【委員AK】

利用者のデータに、市外や県外の利用者の結果はあるのか。

【事務局】

検証結果としては、市内・市外・県外で集計することもできるため、改めて整理したい。

【委員AL】

この通りでは、有名なうどん屋さんもあり、観光客から道案内を聞かれることもあるが、施設の中に入ってきて、聞いたりということはない。それは、観光のパンフレットにアーバンデザインセンターが載っていないからではないかと思う。

【委員AM】

全国的にもパンフレットに社会実験の施設を載せるわけにはいかない。その都度、全て作り直す必要があるため。継続的にやっている部分であれば、載せることも可能であるが、今の段階で

載せることは難しい。

【委員AN】

学生がいることのメリットとしては、地元の方が話をしに来てくれている現状があるので、コミュニケーションを取り易いということも大きいと思う。

【委員AO】

昔は例えば碁会所、将棋を打つとか、碁を打つとか、色々なコミュニティースペースがあった。12月から湊町4丁目の空き店舗を使ってコミュニティースペースを創る取り組みを始める。

先程言われたように、昼と夜では、まちの印象が変わってくるので、まちづくりをする際にも視点が異なってくる。そのため、やるべきことを絞っていくなど焦点がぶれないようにする必要があり、そこに今までにない姿を見せる一つの策は観光だということをさっき言わせていただいたところである。

(5) これまでの運営を踏まえた課題と対策

(6) 自主事業の活動についての紹介

【事務局】

(資料説明 P.5-1～6-2)

(以下、委員ARまでは欠席された委員から事前に預かったコメント)

【委員AP】

利用者を増やす仕掛けが必要。ビジネスセンターの要素もおもしろい。不満足の見解を追加調査すると課題が見えてくる。結果として1年間では出ないものもあるので長い目で見ていくべき。

【委員AQ】

ひろばの利用について、周辺との十分な協議の上、夜間の開放も検討してはどうか。トイレ等の機能もきれいに保たれていて、安心して利用できる施設となっている。女子高生が留まる施設というのも有意義なものである。

【委員AR】

コンセプトを明確にして、「まちづくり」という観点を全面に打ち出していく必要がある。

【委員AS】

調査結果などを見てみると、非常にいい反応を示している人が多いが、大街道、銀天街、商店街の中全体でみると、まだまだ知らない人も多く、自分たちとの関わりという面でも希薄だということである。

例えばまちづくり新聞のようなものを出して、個店の紹介をして、個店とアーバンデザインセ

ンターとこのスペースとの関わりというものを何らかの形でつくることをすると、「自分たちの店の情報が出ているのなら見に行こうか」とかいうこともできると思う。例えばこの空間の一区画を個店の紹介PRなどのスペースとして利用できれば、自分の店のものをここへ持って来てPRしようとかいうのもできる。個店との結びつきがつかれるようなことを考えてもらったら手を挙げる人も出てくるのではないかという気がしているので、学生を活用してまちの情報を出してもらおうようなものを作りたいと思っている。

また、観光面で、観光が一番町までで止まっているというのは誰もがわかっていることで、まちの中にもまだ資源はたくさんあって、回遊できる要素はたくさんある。そういうものを掘り起こしていく作業は、これからまちなかの魅力づくりという面で努力して行って、観光客をまちの中に回遊させるための素材づくりというか、情報発信していくものとか、そういうことをやりたいと思っている。

【委員AT】

まちづくり新聞は個店とでなく商店街と連携しながら、恒常的にやっていければと思う。

【委員AU】

毎月出して、「今回はこういう店の情報、こういうジャンルの店の情報、来月はこういう店の情報」とか言って、まちの中の魅力スポットとか、いろんな捉え方はできると思う。蓄積していくことが重要である。

【委員AV】

商店街との関わりも必要であるが、商売につながっていくことが重要である。

公共的にみると、全体的な人の流れ自体は多くなっているかもしれないが、それが商売やPRに活用されているかと言うと、それはまた別問題である。

駐車場がよかったとかいう人も、商売されているところでは多いと思うので、商店街の魅力を発信する場としての機能も必要だと思う。

【委員AW】

関わりを持ちたいというアイデアはすごくいいと思うが、商店街というのは、店主のみでなく利用者や買い物客を含めての人口が商店街である。商店主は正直、商売がうまくいってれば、余りそこにはこだわらないと思う。今まで色々な人が様々な手法でマップなどを作ってきたので、やる際には手法を考えなければならない。

商店街が取り組むのであれば、売上を上げるためにというように施策や目的はわかりやすい。一方でまちづくりの施策になってくると、いろんな目的、方向性がある、「誰が何のために」というのがわかりにくくなるというのが実は今回の焦点でもあると思う。

関わりをもつということを学生やアーバンデザインセンターがするのも良いが、広く公募してまちに興味を持ってもらう人を増やすワークショップのような形で来街者や商店主の方と触れ合う機会があれば、「君たちはこういうことをやってるんだね」ということがわかってくる。

商店街としても、別に商店街だけが栄えてもうまくいくはずないとも思っていますし、商店街

の機能はいろいろあるため、ホコ天の取り組みも含めて見ていただけるように、面として考えなければいけない。隣の通りも含めて巻き込み方のコンセプトや目的ははっきりしてやらないといけない。

【委員AX】

今までのやり方だけではなく、考え方をある程度変えないといけないのかなという思いがした。これには関係ないが、路上駐車・駐輪対策についてもまちづくりという視点から重要であると考えている。

【委員AY】

大きい目線からの考え方と下からのボトムアップは両方同時に進めていかないといけないと思う。この場所ができたことによって生まれた下からのニーズの吸い上げはうまくできていると思う。ただ、ボトムアップだけで終わってしまえば、「せっかく挙げたのにもったいなかった。何をしたのか」というようになることに対しての危惧は持っている。

そのため、これからこの船をどこに持っていくのか、目的地はどこで、みんながこの場所がどういう場所になるのかというのを考えるべきであり、下からのボトムアップと上からの大きい目線での考え方がマッチングするようにすり合わせをしていかなければいけないというところだと思う。

【委員AZ】

みんなを巻き込みながらやるしかないので、そのやり方が重要である。

【委員BA】

観光客が足を運べるような、紹介できるようなものに育ってほしいという思いがある。観光情報ともタイアップして、ここで、情報発信ができたらいいと思っている。それによって色々な方が、賑わいの創出ということで、経済的にも回っていったらいいと思う。

【委員BB】

社会実験として1年間が経過し、ボトムアップで様々な取り組みが今に至っているというところはある。それで効果が出ている面もあるが、新しく観光という論点もあり、この場所の様々な可能性はあると思う。一方で、有効活用できていないところもあるので、どういう可能性があるのかというのを中長期的に見ながら検証していくことができればよいと考える。ただ治安の面について等は問題がないという良い面もあるので、そういった面も評価しながら長い目で見定めていくのも必要だと考えている。

(7) 今後の進め方

【事務局】

(資料説明 P.7-1)

【委員BC】

それでは、今日の議題は以上としたい。引き続き、皆様方いろいろ御意見いただき、連携しながら進めていきたいと思う。特に観光の視点は、意見としていただいたので、具体的にどう進めていくかというのを協議させていただければと思う。

5. 閉会

【事務局】

(事務局 閉会挨拶)

以上